

第7講 人口と家族 (1): 人口学の考えかた

田中重人 (東北大学文学部准教授)

[テーマ] 人口ピラミッドを読む

1 前回の課題について

- 三権分立と法改正、法解釈
- 違憲立法審査の仕組み
- インターネット上の情報の信頼度
- ドメイン名の仕組み

2 今回の課題

配布資料の「人口ピラミッド」からどんな特徴が読みとれるか。全体的な形状のほか、特に A~D の部分に注目して説明すること。教科書 I-3 などを参考にするとよい。

3 人口学とは

「人口」(population): ある属性 (たとえば居住地・年齢・性別など) に該当する人間の数

人口について研究する学問を「人口学」と呼ぶ。狭い意味では、人口やその変動をとらえるための理論をあつかう「形式人口学」(formal demography) だけを「人口学」と呼び、人口に関わる具体的な諸問題をあつかう「人口研究」(population studies) と区別することがある。

- 人口静態……ある一時点における人口の状態
- 人口動態……ある一定期間における人口変動要因 (出生・死亡・移動など)

4 人口ピラミッド (population pyramid)

ある時点での人口を、左が男性、右が女性、下が若年、上が高年齢になるようにして、グラフにあらわしたものの。年齢構造の特徴をひと目で把握できる。

現代日本では、どの年齢層が多く、どの年齢層が少ないか?

- 年齢3区分: (0-14 歳; 15-64 歳; 65 歳以上) → 年少人口係数、老年人口係数 (高齢化率)、従属人口指数など

5 人口動態 (population dynamics)

5.1 人口方程式 (demographic equation)

$$\begin{aligned} \text{人口増加} &= \text{自然増加} + \text{社会増加} \\ &= (\text{出生} - \text{死亡}) + (\text{流入} - \text{流出}) \end{aligned}$$

現代日本社会では、国際移動による増減はあまりない。日本全体の人口の変動は、ほぼ自然増加で決まると考えてよい。すなわち、出生数と死亡数の差である。

5.2 コーホート観察と期間観察

出生コーホート (birth cohort)……おなじ年に生まれた人々を指す。単に「コーホート」と呼ばれることも多い

※ 「コーホート」とは、おなじ時期におなじ出来事を経験した人々の集団をいう。

- コーホート観察 …… ある年に生まれた人たちのその後の動向を観察していくこと。
- 期間 (period) 観察 …… 一時点 (あるいは一定期間) における状態を観察すること。

6 人口転換 (demographic transition)

人口は、かなりダイナミックに変動する

- 等比数列的な増加・減少
- 年齢構造の変動

特に、近代化にともなっては、死亡率が低下し、ついで出生率が下がる。この結果として、近代社会は、

多産多死 → 多産少死 → 少産少死

という変化を経験する。日本社会では、1920年代～1950年代ごろ。

7 中間試験について

次々回 (6/17) 中間試験

- なんでも持ち込み可 (ただし、電子機器の使用は、留学生の日本語辞書以外は禁止する)
- 範囲は、授業開始から次回授業まで
- 試験終了後は通常の授業をおこなう

文献

京極高宣・高橋重郷 (編) (2008) 『日本の人口減少社会を読み解く: 最新データからみる少子高齢化』中央法規出版.

河野稠果 (2007) 『人口学への招待: 少子・高齢化はどこまで解明されたか』(中公新書) 中央公論新社.

和田光平 (2006) 『Excelで学ぶ人口統計学』オーム社.